



海千日如彼山々の
 たりし男の許より免ぬ
 の事一昔あり物干さる
 おもひなきうろはひなく
 主許なきくえさし病女
 みかれはま命半切らる
 ぢりし言諸もいしは
 漸りてかぬるまじき
 ちるちりして後件も
 甲斐あんなる

山々の暮れをぬり

ちの株

近江守
 大目



歳旦

着心之七面歳也

切計

歳首

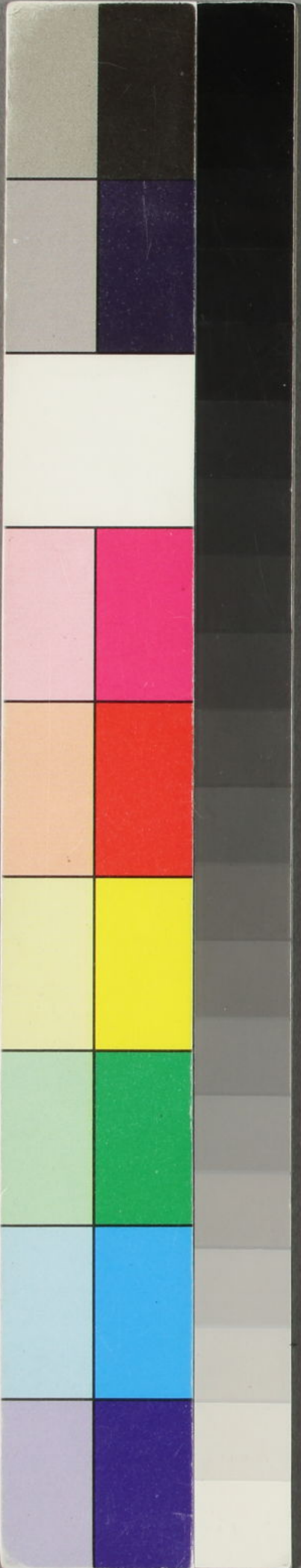
心之度のよき年也

切計

宝曆壬午初春

歳旦

友用



歳旦



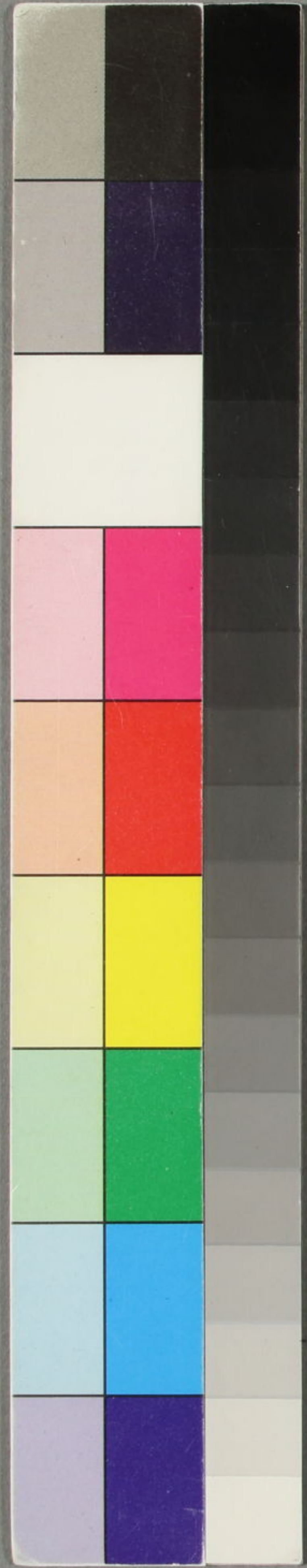
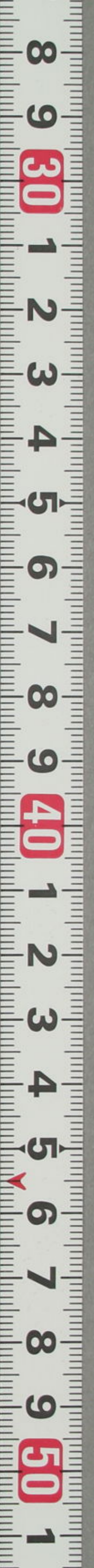
千三之百の美書
神田新

歳尾

隆新美
白字
白字百字文

明和九
辰初陽

カニ
尾田



30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1

安永三年初春
止歳旦

卯好ぬ六つ少節子れ七瀬と直
何しらくわんれぬるこあき初旦の
億とたあつる

着水や二天目よ何事

止歳尾

お毎一とてと島つ社との節の
二とをんせは接百おもあつぬ
又と希一とつ百おもあつぬ
雲ととも何もの子多入用何の
日毎一とあつとけおれとお
接ぬ百人もさう似せのげと接ぬ
今つ社との節の徳と報と接ぬ
つらとあつ事とさうし
とあつ

捨同七つりいせぬく年ぬ節
左角





リルあるはれはるらう

大辛日

冬水共の申
初春

合紙吉
左角





歳旦



明神と空より配る春の文
梅候斬りし其香
楊如りの雪白の若菜かきこも

歳尾

牛の脊は春をよる年の中

亥年七
初春

金亀舎
七角



歳旦



日の為に陽々^にと

梅若菜

歳尾

勤^しを^ん辰^がた

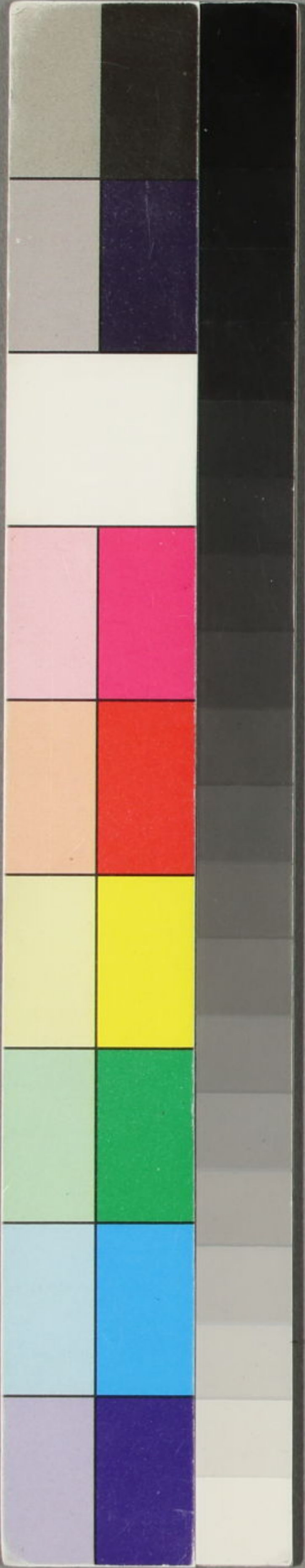
年の市

安永九子

初春

聖詔告

左角





歳旦

日れ思ふ秘漢多物
とて思ふ初旦

山と里と

海と都と

初日影

歳尾

辛日の闇に物捨
今と今と
昔は狂馬鹿なり

大なる夜や

足音の音

安永十三年

正月初春

吉慶寺

たて用





白の紙

歳旦

胡風の初果

松の雪のり

歳尾

羊内之春

歳の内小まをり

梅の雪のり

天明の歳

たて

黄初陽





歳旦



新しき日の光り
徒多し初多し
草亦し春色の
旅はと云

元初や

梅の花

歳尾

上戸ハ吐下
魚ノ尾
辛巳ノ年
辛巳ノ年

江戸
辛巳ノ年
辛巳ノ年

天明七

丁未初陽

金書

左之用





歳旦

千禧上(梅)小(之)子

在(之)身(以)

歳尾

多(每)小(師)色(之)魚

切(こ)ハ(一)切(社)

在(之)身(以)

親(之)身(祈)が(之)年(旦)

年(之)年

三(之)年(申)初(臨)

在(之)身(以)

在(之)身(以)





歳旦

梅の葉の香の舞
の如く

歳尾

切花の香の舞
の如く

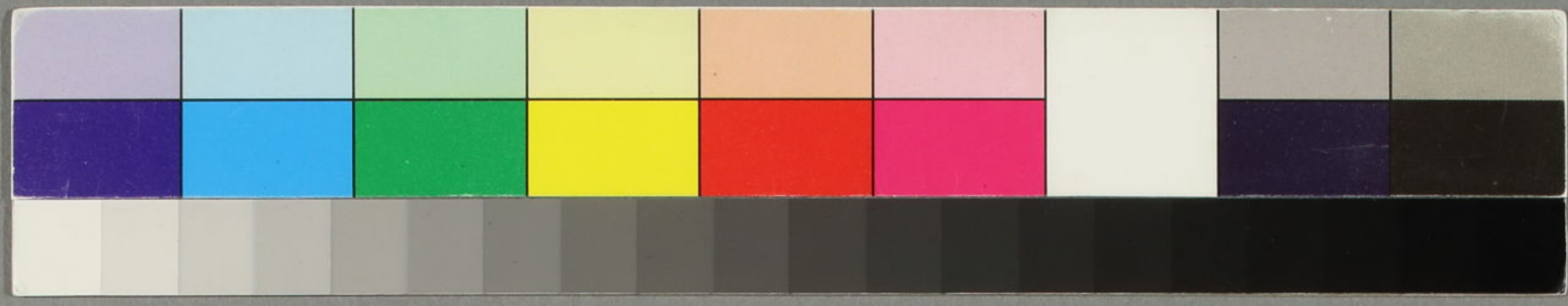
寛政の

辰
初春

金産居

尾角





歳旦

以候に定宗也 歳旦の
才の早小がし 祈り物路
の長小がし 祈り物路
年々

甲 日 見 息 子 年 々 祈 り 物 路

歳尾

望むれば 祈り物路の目
かき 祈り物路の目
福を 祈り物路の目
の 祈り物路の目
祈り物路の目
祈り物路の目

子 祈り物路の目
祈り物路の目

寛政 祈り物路の目
祈り物路の目

筆 祈り物路の目
祈り物路の目





歳旦

雪の降成初雪也 山嵐矣

歳尾

年月意はあつて 此日の
たす

貴政共

冬也 初陽

金福吉

大角





歳旦

手紙の思ひはたけり
只の白字のしるし
一紙半紙の紙目れ
予の書はしつと
こぼれしるし
抄りてしるし

流のりし梅の形

よしの文

歳尾

宝初也納用納白

除夜の夢

寛政七年

金亀吉
尾角

甲寅初春

